

交通事故発生状況（令和2年中）

交通事故の特徴

1 発生件数、死者数、負傷者数いずれも前年同期比で減少

令和2年中の京都府内の交通事故の発生状況は、発生件数4,118件（前年比-1,065件、-20.5%）、死者数49人（前年比-6人、-10.9%）、負傷者数4,699人（前年比-1,372人、-22.6%）です。

2 歩行中等の死者が最多

死亡事故の特徴を状態別でみると、歩行中等が20人、自動二輪車乗車中が15人、自動車乗車中が8人、自転車乗用中が6人となっています。

京都府内の発生状況

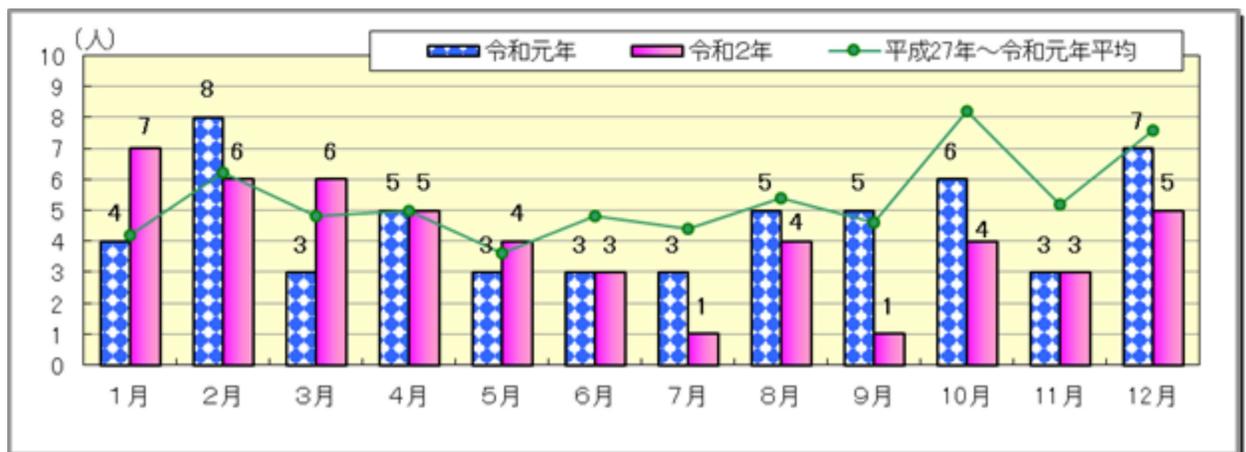
12月中

| 区分/年別 | 平成30年 | 令和元年 | 令和2年 | 前年同期比 | |
|-------|-------|------|------|-------|--------|
| 発生件数 | 614 | 536 | 418 | -118 | -22.0% |
| 死者数 | 14 | 7 | 5 | -2 | -28.6% |
| 負傷者数 | 701 | 605 | 471 | -134 | -22.1% |

令和2年中

| 区分/年別 | 平成30年 | 令和元年 | 令和2年 | 前年比 | |
|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 発生件数 | 6,142 | 5,183 | 4,118 | -1,065 | -20.5% |
| 死者数 | 52 | 55 | 49 | -6 | -10.9% |
| 負傷者数 | 7,258 | 6,071 | 4,699 | -1,372 | -22.6% |

月別死者数



全国・近畿管区内の状況

全国の状況

令和2年中の全国の交通事故死者数は2,839人（前年同期比-376人、-11.7%）です。東京都が155人で最も多く、次いで多いのが愛知県の154人、北海道の144人の順となっており、京都府の49人は多い方から20番目です。

| 区分/年別 | 令和元年 | 令和2年 | 前年比 |
|-------|-------|-------|---------------|
| 死者数 | 3,215 | 2,839 | -376 (-11.7%) |

| 順位 | 都道府県別 | 死者数 | 前年比 |
|------|-------|-----|--------------|
| 第1位 | 東京 | 155 | 22 (16.5%) |
| 第2位 | 愛知 | 154 | -2 (-1.3%) |
| 第3位 | 北海道 | 144 | -8 (-5.3%) |
| 第4位 | 神奈川 | 140 | 8 (6.1%) |
| 第5位 | 千葉 | 128 | -44 (-25.6%) |
| 第20位 | 京都 | 49 | -6 (-10.9%) |

近畿管区内の状況

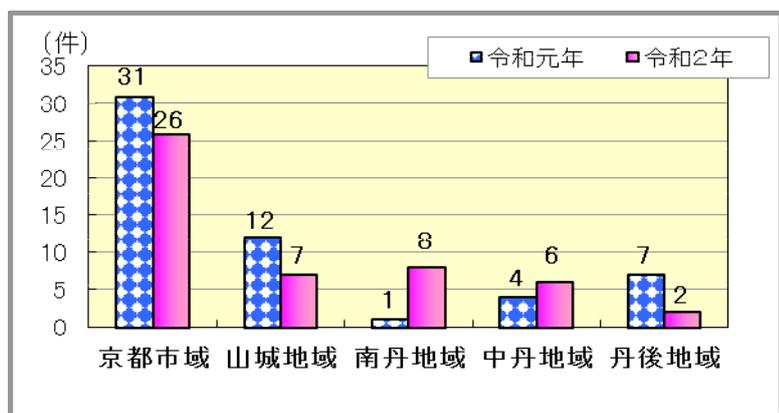
令和2年中の近畿管区内の交通事故死者数は、前年より72人減少し、375人です。

| 都道府県 | 死者数 | 前年比 | |
|--------|-----|--------------|--------------|
| 近畿管区 | 375 | -72 (-16.1%) | |
| 府 別 | 滋賀 | 49 | -8 (-14.0%) |
| | 京都 | 49 | -6 (-10.9%) |
| | 大阪 | 124 | -6 (-4.6%) |
| | 兵庫 | 110 | -28 (-20.3%) |
| | 奈良 | 25 | -9 (-26.5%) |
| | 和歌山 | 18 | -15 (-45.5%) |

京都府内の死亡事故の特徴

発生地域別死亡事故件数

令和2年中、京都市域が26件、南丹地域が8件、中丹地域が6件、山城地域が7件、丹後地域が2件の発生となっています。



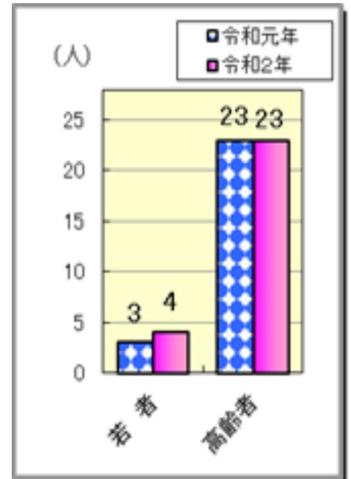
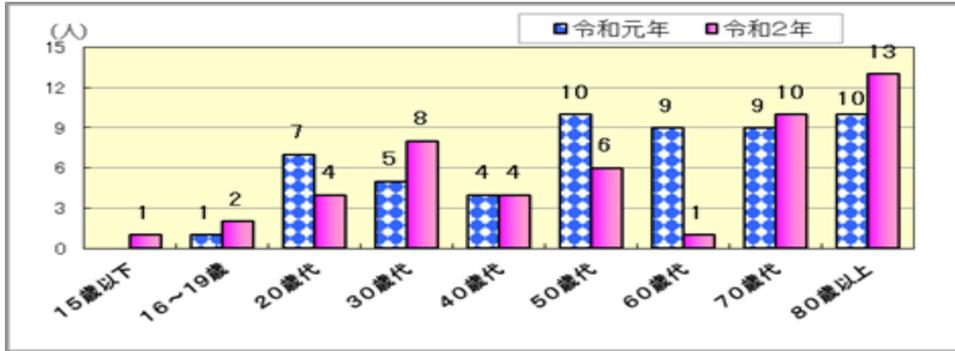
発生地域の内訳 (令和2年中)

| 区分 | 市区町村 |
|------|---|
| 京都市域 | 北区(1)、左京区(1)、中京区(1) 東山区(1)、山科区(3)、下京区(3) 南区(3)、右京区(2)、西京区(4)、 伏見区(7) |
| 山城地域 | 宇治市(2)、向日市(3) 久御山町(1)、南山城村(1) |
| 南丹地域 | 亀岡市(2)、南丹市(5)、京丹波町(1) |
| 中丹地域 | 福知山市(2)、舞鶴市(4) |
| 丹後地域 | 京丹後市(2) |

年齢層別死者数

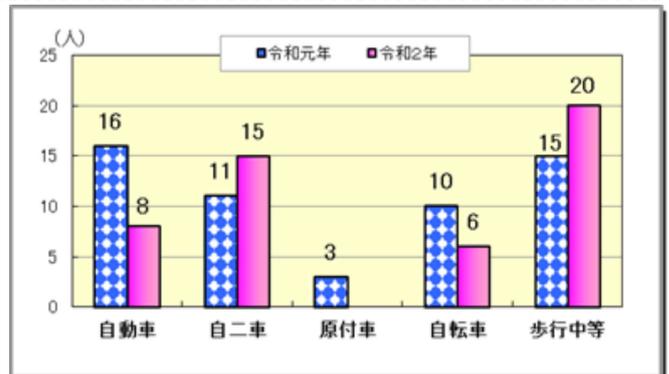
高齢者の死者数が23人（前年比±0）で、全死者数（49人）の46.9%を占めています。また、若者の死者は4人（前年比+1人）です。

（注）「若者」とは16～24歳、「高齢者」とは65歳以上の方をいいます。



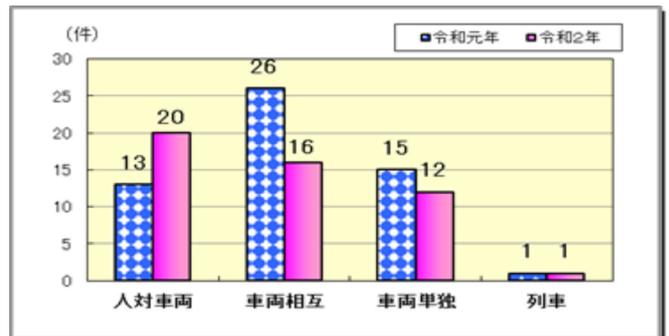
状態別死者数

歩行中等が20人、自動二輪車乗車中が15人、自動車乗車中が8人、自転車乗用中が6人となっています。

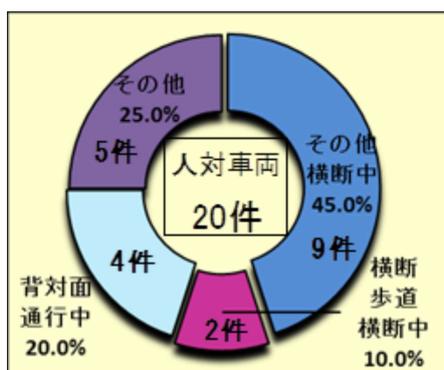


事故類型別死亡事故発生件数

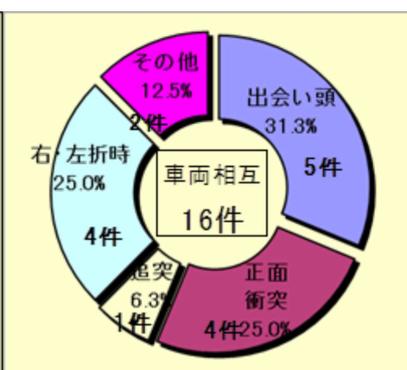
人対車両が20件、車両相互が16件、車両単独が12件、列車が1件となっています。



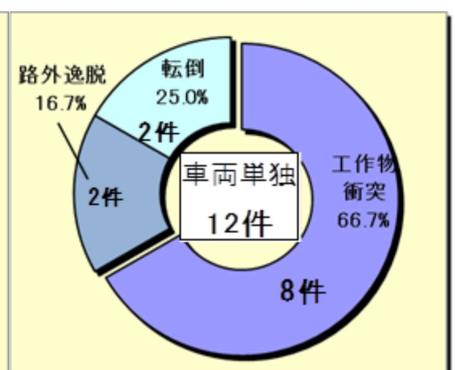
【人対車両事故の内訳】



【車両相互事故の内訳】

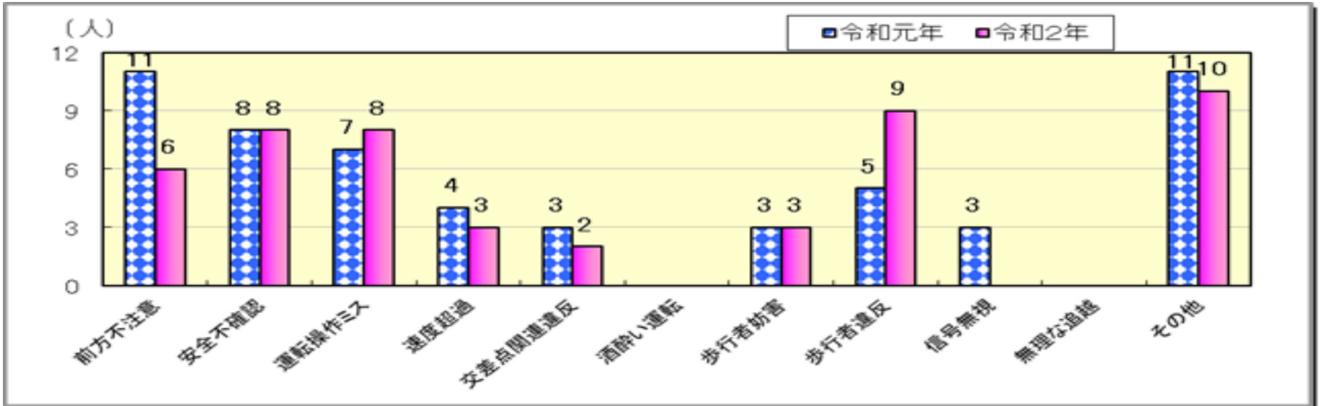


【車両単独事故の内訳】



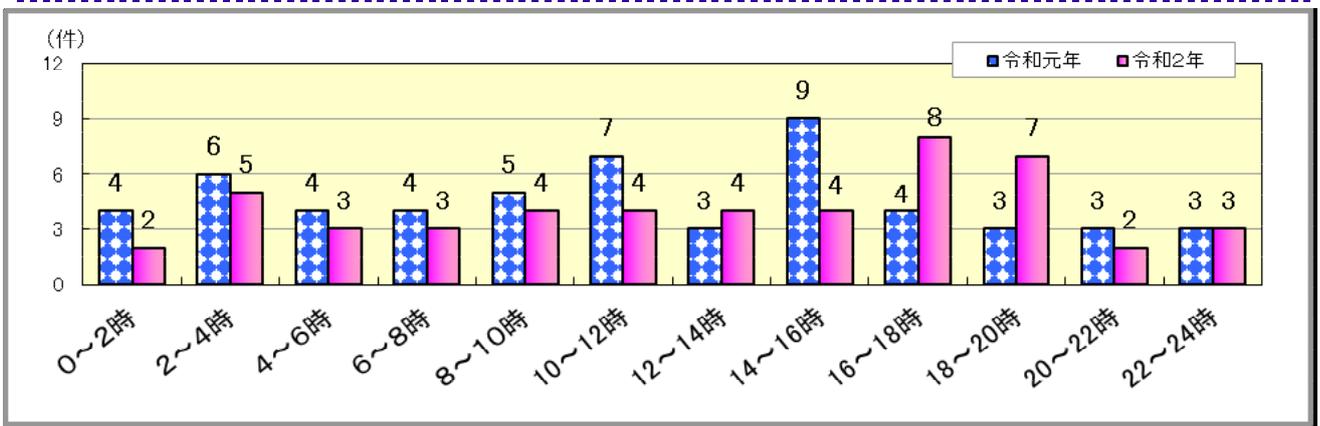
主な事故原因別（第1当事者）死者数

歩行者違反が9人、安全不確認・運転操作ミスが各8人、前方不注意が6人、速度超過が3人、交差点関連違反が2人、歩行者妨害が3人、その他が10人となっています。



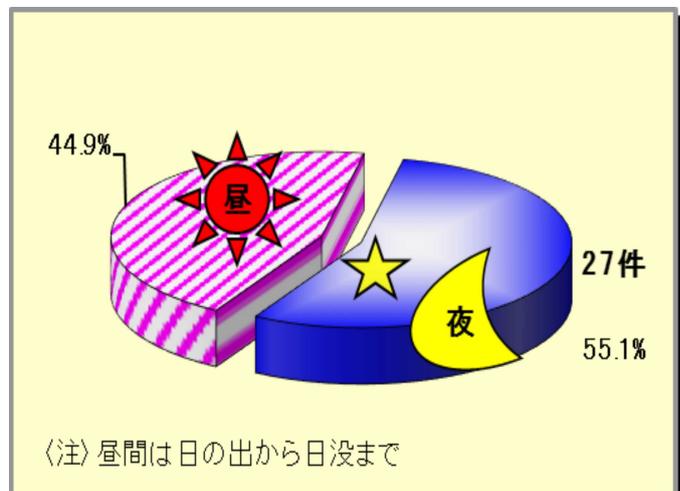
発生時間帯別死亡事故発生件数

16～18時台が8件、18～20時台が7件、2～4時台が5件、8～10時台・10～12時台・12～14時台・14～16時台が各4件、4～6時台・6～8時台・22～24時台が各3件、0～2時台・20～22時台が各2件となっています。



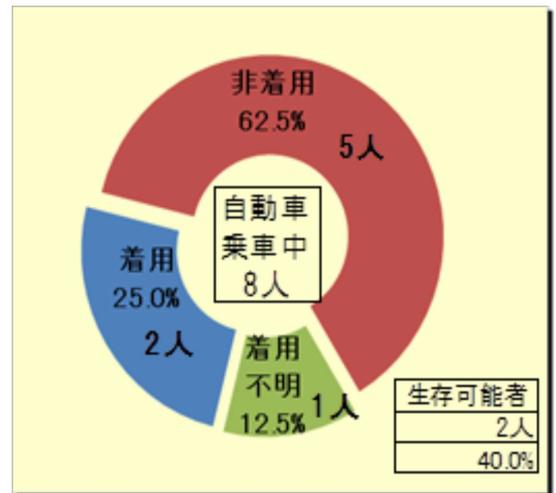
昼・夜間別死亡事故発生件数

死亡事故の昼・夜間別発生状況は、昼間22件（前年比－9件）、夜間27件（前年比＋3件）です。



シートベルト着用状況

自動車乗車中の死者のうち、シートベルト非着用が5人（62.5%）です。



飲酒事故の状況

飲酒運転（第1当事者が原付以上の車両を運転し、酒酔い運転又は酒気帯び運転）による死亡事故は3件です。

